



第4講座『熱だ！風邪かも』(主に「熱がありそうだ」という場合)

診断はできません。受診勧奨の際、思い当たる病名などを口に出さないように注意しましょう。かぜ薬は、2歳未満の乳幼児には医師の診療を受けさせることを優先しましょう。

問1.【受診勧奨】常連のお客様から、かぜについての相談を受けました。受診勧奨が適当と思われる症状には○、セルフメディケーションが可能なら×を記入して下さい。

お客様は、熱が出ていれば“かぜ”のつもりでかぜ薬を買いに来られます。また、かぜ薬をのむことで一時的に症状が楽になり、「薬が効いて治ってきた」と考えます。しかし、それは事実と異なる場合があるので要注意です。

(1) 受診を勧めるべき生命に関わる重大な疾病の症状ではないか？

- ① 高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等があらわれた。
厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 『スティーブンス・ジョンソン症候群』より
- ② のどの痛み、飲み込みにくさがあり、声までおかしい。発熱とともに息苦しくなってきた。
- ③ 微熱があつて、空咳が続いていて、最近では息切れが気になっている。布団の上げ下ろしでも息切れするようになってきた。
- ④ 風邪が長引いて、発熱・咳以外に息苦しさや胸の痛みがある。色のついた粘性膿性の痰が出る。
- ⑤ 発熱、頭痛、項部硬直（仰向けの状態で頭を持ち上げると肩まで上がってしまう）がみられる。
- ⑥ 昨夜、吐いて下痢もしたが今朝はおさまった。しかし、今日は38℃の熱に加え、前かがみになると下腹部に違和感があり、胃の辺りがジクジク痛む。そこで、家にあったロキソニンをのんだらどの症状も楽になった。
- ⑦ 子どもが発熱して全身に発疹が・・・。



(2) その他、受診を勧めるべき、あるいはしかるべきところへ案内すべき症状ではないか？

- ① のどが痛み、熱は38℃以上。頸部リンパ節の腫れが目立ってきた。(扁桃や舌が白苔で覆われ、舌はその後に莓舌になることがある。また、発疹もみられることがある。)
- ② 子どもが、38℃の熱、咳、鼻汁、のどの痛みが出ており、普通の風邪だと思いが、結膜充血、目やに、眩しさを訴えているのが気になる。
- ③ 2週間以上、せきや痰、微熱が続いている。寝汗も気になる。
- ④ 疲れやすく、微熱があり、手指が痛む。鼻梁と両頬の部分が、蝶が羽を広げているように赤くなった(蝶型紅斑)。
- ⑤ COVID-19の発症から3ヵ月経ったが、罹患後、疲れやすく物事に集中できない。COVID-19以外に原因が思い当たらない。



↑ 蝶型紅斑 難病情報センターH.P. (H24年6月現在)から引用

問2.【セルフメディケーションでも対応できるかぜの症状】()に当てはまる適語を下欄から選んで下さい。

・“かぜ”と認識される病気のほとんどは(①)が原因で、鼻症状、咽頭痛が主体で、発熱、頭痛、全身倦怠感などを伴い、下気道まで炎症が及ぶと咳、痰が出るようになる。くしゃみや咳によって(②)する。

例えば(③)に突然高熱を出し、口の奥とのどに多数現れた小水疱が破れて潰瘍になって痛むのは“ヘルパンギーナ”が考えられる。主に小児に流行するが、まれに大人にも発症する。潜伏期間2~4日。2~4日間程度で解熱する。
ヘルパンギーナの咽頭炎→(公社)日本口腔外科学会 H.P.から引用



(①) 性であれば、安静、水分・栄養補給により自然に治るが、症状のつらさに応じてかぜ薬や解熱鎮痛薬、トローチやうがい薬などを使うとよい。

(④) 性の(⑤), 肺炎クラミジア, および百日咳菌には治療薬が存在し、それらは周囲への感染力が強く、ときに重症化するため、(⑥)が続く場合にはこれらを疑い、他者への感染予防のため受診勧奨する。

- | | | | | | | |
|------------|----------|-------|---------|----------|------|------|
| A. ウイルス | B. 細菌 | C. 真菌 | D. 飛沫感染 | E. 空気感染 | F. 夏 | G. 冬 |
| H. マイコプラズマ | I. レジオネラ | J. 高熱 | K. 咳 | L. 水様性の痰 | | |

問3. 【一般用医薬品の主作用の特徴】

(1) かげ薬の成分の主作用の特徴に対する正しい成分を下欄から選んで下さい。

- ① プラスミンの作用で産生される活性ペプチド等による炎症を抑制する。
- ② 気道の液量増加による痰の粘度低下、線毛運動亢進、肺表面活性物質(肺サーファクタント)分泌促進等。
- ③ 喀痰中のシアル酸とフコースの構成比を正常化して粘度低下、気道粘膜上皮の線毛細胞の修復を促進。
- ④ 速効性ではやや劣るが、末梢でのプロスタグランジン合成阻害は強く、解熱・鎮痛・抗炎症作用が強い。

A. トラネキサム酸 B. L-カルボシステイン C. アンブロキシソール塩酸塩 D. アセトアミノフェン E. イブプロフェン

(2) 下の表は「かげ」又は「感冒」の効能・効果*について、承認基準に基づく漢方製剤の例を適応体力と適応時期ごとにまとめたものです。①～⑥の処方を選択して下さい。

体力 時期	体力充実	比較的体力がある	体力中等度	やや虚弱	体力虚弱
初期	← 麻黄湯 →	(②)	← (①) →	← 香蘇散、桂枝湯 →	
			← (③) →		
過渡期			← (④) →		
後期			← (⑤)、竹茹温胆湯 →	← 補中益気湯 →	
	← 麻杏甘石湯、五虎湯 →			(⑥)	

A. 葛根湯 B. 桂枝加葛根湯 C. 小青竜湯 D. 小柴胡湯 E. 柴胡桂枝乾姜湯 F. 柴胡桂枝湯

*「かげ」と「感冒」の用語統一がされていないが、特に使い分けしているわけではないとのこと。(厚労省の説明)

問4. 【患者情報確認】()にあてはまる、使用上の注意に照らして最も適切な言葉を下欄から選んで下さい。

- ・麻黄湯、葛根湯、小青竜湯には、(①)が配合されており、交感神経刺激作用により、“体の虚弱な人”、“胃腸の弱い人”、“発汗傾向の著しい人”、“高齢者”、“排尿困難のある人”、“高血圧、心臓病、腎臓病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人”には注意が必要で、麻黄湯は“体の虚弱な人”には使用できない。
- ・15歳未満の小児に使用する機会がありうる常備薬のかげ薬に、イブプロフェン、(②)、アスピリンアルミニウム、サザピリン又はプロメタジンメチレンジサリチル酸塩配合剤は選べない。
- ・サリチルアミド又は(③)を含有する製剤には、水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15歳未満)は使用前に相談するよう、明記されている。
- ・アスピリン、アスピリンアルミニウム又は(④)を含有する製剤は、出産予定12週以内は使用してはいけない旨、明記されている。
- ・(⑤)を含有する製剤は、12歳未満の小児は服用できず、授乳中は服用しないか授乳を避けなければならない。眠気等があらわれることがあるため、服用後、乗物又は機械類の運転操作をしてはならない。また、まれに起こる重篤な副作用の報告として「呼吸抑制」があるので、呼吸機能障害、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、肥満症の診断を受けた人は相談するよう明記されている。
- ・(⑥)配合剤の相談事項において、「次の診断を受けた人」に記載されているのは「肝臓病、心臓病」。

A. マオウ B. セッコウ C. L-カルボシステイン D. イソプロピルアンチピリン E. アスピリン F. エテンザミド
G. イブプロフェン H. コデインリン酸塩水和物もしくはジヒドロコデインリン酸塩 I. dl-メチルエフェドリン塩酸塩

問5. 【アドバイス】次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を記入して下さい。

- ① コロナウイルス、インフルエンザウイルスは、石鹼では感染力が衰えない。
- ② 解熱鎮痛成分を含有するかげ薬は、長期連用してはならない。
- ③ 咳やくしゃみの飛沫が飛ぶ距離は最長でも約1メートルと考えて、距離を意識しましょう。
- ④ かげ・ウイルス対策用不織布マスク(BFE・VFE試験基準を満たすもの)は、ウイルスを捕集できるようにできている。
- ⑤ インフルエンザは、発症から48時間以内に抗ウイルス薬を使用すれば、発熱期間が通常3~4日間短縮される。